

厚生労働科学研究費補助金難治性疾患等政策研究事業
難治性炎症性腸管障害に関する調査研究
分担研究報告書（平成 29 年度）

UC、CD、IBDU、IC における診断変遷症例の検討

研究分担者 岡崎和一 関西医科大学内科学第三講座 教授

研究要旨：IBD の診断において UC と CD の鑑別が困難な場合には、これまで（欧米の IBDU を包括した概念として）IC の名称が用いられてきた。鑑別困難例は少なからず存在するものの、IBDU・IC の多くは経過中に UC ないし CD に典型的な臨床所見を呈するとされる。しかし、一部の症例では確定診断が得られず IBDU・IC のまま経過することもあり、実態は明らかでない。UC、CD、IBDU、IC における診断変遷症例の実態を明らかにし、少しでも早い時期に正しい診断を下し、適切な治療法を選択できるよう、診断に有用な所見を抽出することが主要な目的である。

共同研究者

濱田 円（関西医科大学附属病院消化管外科）
吉岡和彦（関西医科大学総合医療センター）
仲瀬裕志（札幌医科大学医学部消化器内科学講座）
妹尾 浩（京都大学大学消化器内科学講座）
松浦 稔（京都大学大学消化器内科学講座）
中村志郎（兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座内科）
渡辺憲治（兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座内科）
池内浩基（兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座外科）
金井隆典（慶應義塾大学医学部消化器内科）
緒方晴彦（慶應義塾大学医学部消化器内科）
久松理一（杏林大学医学部第三内科学）
平井郁仁（福岡大学筑紫病院）
鈴木康夫（東邦大学医療センター佐倉病院）

検討、決定 2)臨床研究倫理審査申請

H31（予定）：（各施設からの詳細な経過、検査所見等をもとに、）

1-i)臨床経過中や術後などに、UC、CD、IBDU、IC の間において診断が変更された症例における内視鏡所見 1-ii)病理学的所見 1-iii)その他各種検査所見等の特徴の解析。

2-i)IBDU、IC、（UC、CD）の内視鏡所見 2-ii)病理学的所見 2-iii)その他各種検査所見の特徴の解析

（倫理面への配慮）

特になし

C. 研究結果

予備調査アンケートを回収した。

アンケート結果を報告・解析し、当研究における問題点や、さらに詳細な検討が必要になると思われる点を考え出し、倫理申請の準備をしている。（概ね予定通りの進行している）

D. 考察

解析事項が膨大になる可能性が高く、CQ を明確化・単純化する方が良いと考えられた。

E. 結論

A. 研究目的

UC、CD、IBDU、IC における診断変遷症例の実態を明らかにし、少しでも早い時期に正しい診断を下し、適切な治療法を選択できるよう、診断に有用な所見を抽出すること。

B. 研究方法

H29：1)総会における演題発表、提案 2)予備調査アンケート実施、回収、解析

H30（予定）：1)調査項目、解析方法の提案、

IBDU、診断変更例のアンケート調査を行なったが、解析事項が膨大になると考えられたので解析事項を絞り込む必要がある。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特になし